

報告 8 資料 1

報告資料

学会賞選考委員会

1 第 18 回日本 NPO 学会賞の候補作品募集について

11 月 7 日に募集案内を学会のホームページにて公開を開始。

11 月 29 日に募集案内が公開がなされていることをメーリングリストで会員に通知。

2 年次大会優秀発表賞の選考方法の見直しについて

ML にて選考委員会を開催し、2019 年 8 月 26 日に開催された第 14 回理事会において坂本理事から提案のあった、年次大会優秀発表賞の決定に際し、一般セッションの発表者が事前に提出する要旨および報告論文を選考委員が相互比較を行った上で審査し、受賞者を決定することについて検討を行った（10 月 23 日～11 月 4 日）。

年次大会における報告論文のクオリティを考慮する必要性については異論がなかった。現行方式では、モデレーターや討論者が要旨と報告論文にスコアをつけるので、それらの方々による評価のほう学会賞選考委員よりもおそらく専門に近い方による評価になるので、その方々に委ねるのがよい、選考委員がすべての報告論文を精読してスコアをつけ、それを持ち寄ることになると、選考委員に求められる労力がかなり大きくなるので、マンパワー等の体制を再検討する必要がある、との意見が委員から出された。

選考委員が報告論文のスコアをつける場合は、モデレーターや討論者のつけたスコアとウェイトをどう調整するのかという新たな実務上の問題が発生する。また、前回の大会では同点の報告があったため、細則でいう「総合的な判断」を慎重に行ったが、大会終了後の限られた時間の中で厳密な審査を行うことに限界もある。もともと、発表賞はその名の通り発表に重きを置いた賞だということ、この賞を設けたのは大会における報告を活発にすることが主な目的であったことも考慮する必要がある。

とはいえ、審査をできるだけ厳密、公平にすることは重要なので、選考委員が個々の報告論文をしっかりと読み、横並びの比較を念頭に置きながら本審査に臨むことを確認した。

3 今後の予定

- 1 月 31 日 作品募集締切
- 2 月 1 日～ 作品選考に係る査読分担の調整
選考委員への作品送付
- 2 月中旬 審査方針の確認、査読開始
- 4 月下旬 対面の選考委員会にて査読結果集約、協議、受賞作品の決定
選考結果の執行部、理事会への報告
- 5 月 選評の作成
- 6 月 6 日 年次大会にて表彰式
優秀発表賞の選考、受賞者の決定
- 6 月 8 日～ 受賞者への通知、理事会、会員への報告
学会誌の書評執筆

以上